

第18回八王子市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時	平成25年2月20日（水） 10：00～12：00
場 所	八王子市保健所 2階講堂
議 題	議 事 （1）八王子市地域公共交通活性化協議会 平成24年度事業報告について （2）中心市街地循環バス専門分科会について （3）八王子市の公共交通のあり方について 報告事項 （1）はちバスの西南部コースルート変更について （2）小津町地域バス及び醍醐・降宿地区タクシーの乗車状況について （3）小津町地域バス及び醍醐・降宿地区タクシーのアンケート調査結果について （4）交通事業者からの報告 そ の 他
●議事(1) 八王子市地域公共交通活性化協議会 平成24年度事業報告について 今年度の事業である山間地域交通改善モデル事業小津町、山間地域交通改善モデル事業醍醐・降宿地区、バスロケーションシステムの導入に関し、それぞれの概要、事業費等の説明を事務局より説明した。 【主な意見、質疑】 特になし 【本件については、事務局提案の内容で合意が得られた。】 ●議事(2) 中心市街地循環バス専門分科会について 第4回中心市街地循環バス専門分科会の中で議論した、本実証実験の評価及び今後について、事務局から最終報告を行った。 【主な意見、質疑】 ・ 買い回り目的での中心市街地を循環させるバスの具体的事例があれば紹介いただきたい。 ⇒（京王電鉄バス株） 現在、駅周辺を循環しているという事例では、新宿のWEバスを実	

際に運行している。東西のオフィス街と繁華街をそれぞれ繋ぐといった、非常にコンセプトがはっきりした中で始めた路線である。運行開始から3年4か月程経っているが、採算的にも厳しい状況が続いているところである。

⇒（西東京バス㈱） いわゆる都市型の循環バスという路線は運行していないが、八日町の100円区間については利便性が高く、利用者も増加している。今後、循環バスを再度検討していくということになれば、市民の方、利用者の方がどのようなことを望んでいるのかということの本質を見つめ直す必要があるのではないか。

⇒（神奈川中央交通㈱） 現在、町田市から依頼を受け、公共施設を循環するバスを運行しているが、採算面は厳しく、赤字部分を町田市に補填していただいている状況である。以前は自社で運行する買い物バスもあったが、今の時代では採算的には厳しく、廃止された。

- ・ 中心市街地循環バスという範囲だけで検討するよりも、中心市街地活性化基本計画などを踏まえ、次の段階に進めていく必要がある。
- ・ 市として、ソフト面での中心市街地活性化とハード面での中心市街地活性化という長期的な計画を立てる中で、将来の目的や中心市街地を活性化させる交通についての役割を明確にし、計画的に実行していく必要があるのではないか。

【計4回の専門分科会を経た上でのまとめとして、本実証実験については、利用者が少なく、継続するには採算が合わない状況であったということが一つ、当初目的としていた循環バスの機能は果たしていなかったということが一つとして挙げることができる。このまとめを基に、商店街を中心とした活性化策であったり、今後開発が計画されている部分であったり、中心市街地の変化といったことを念頭に入れながら、幅広い視点で今後のあり方を議論・検討していく必要があるそうだとすることを結論とし、この分科会を閉じることで合意が得られた。】

●議事(3) 八王子市の公共交通のあり方について

前回の活性化協議会において、山間地域等交通改善モデル事業の今後について、地域の役割、市の役割、活性化協議会の役割、評価基準の考え方について明確にしたが、今後、本協議会で判断をまとめていくに当たり、どのような流れで事業が進んでいくのかというガイドラインが必要なのではないかとの意見をいただいた。

ガイドラインをまとめていくに当たり、地域交通事業導入に当たってのフロー図を作成し

議論していくということで事務局案を提示し、資料に沿って説明した。

【主な意見、質疑】

- ・ はちバスは除外した案なのか。
⇒（事務局）はちバスが運行できない交通空白地域に対しての地域交通事業の導入検討フローである。
- ・ 八王子市の公共交通のあり方、地域交通事業導入ガイドラインを整理、検討していくに当たって、改めて、八王子市の交通空白地域の考え方を提示した方が良いのではないか。
⇒（事務局）過去の議論の中で、一度、交通空白地域の考え方を提示しているか、次回の協議会では改めて整理を行いたい。
- ・ 現在、市の基本構想・基本計画を見直している中で、高齢者に対しての地域交通のあり方というのはどこにも議論されていない。このフロー図の中で表現に入れていくことは検討しなくても良いのか。
⇒（事務局）今回のフロー図・あり方について、今までモデル事業で行ってきたことを積み上げた中で、何が交通空白地域対策として、市の仕組みづくりとしてできるかということを議論・検討できればと考えている。八王子市の公共交通のあり方については、決して交通空白地域だけに特化しているわけではない。今回はあくまでも、八王子市の中での交通空白地域に当たる地域においての新たな何等かの交通を導入する場合にどうしていくかという話で理解いただきたい。

【本件については、引き続き議論・検討していくこととし、次回活性化協議会の中で、今までの議論を含め、ある程度まとめたかたちで公共交通のあり方を事務局案として提案することとなった。】

●報告事項(1) はちバスの西南部コースルート変更について

はちバス西南部コースについては、平成 23 年 1 月に実証運行を開始し、さらなる利便性と利用率の向上を図るために 2 月 1 日からルートの一部変更し、また、第 1 便松子舞自治会館の発車時刻を 40 分早めて運行している。データとして、ルート変更初日の 2 月 1 日（金）は利用者計 74 名、2 月 4 日（月）は 66 名、新設のバス停 3 か所については、乗降する利用者が見られたため、今後さらに PR することで、利用者増が見込まれるものと考えている。発車時刻を早めたことについては、事前に各バス停に新時刻表を張り出すとともに、広報、ホームページ、八王子テレメディアでの放映、沿線及び近隣町会にコースマップを配布する等

周知に努めてきたが、旧時刻でバスを待っていたというトラブルが1件発生した。
ルート変更から日が浅いため、利用状況の詳細については、次回活性化協議会の中で報告をする。

以上の内容について、事務局が説明した。

【主な意見、質疑】

- ・ 町田街道の混雑等、新ルートについては、運行する時間に変化はあったのか。
⇒（事務局）町田街道が混雑している状況はあったが、北口から初沢踏切を渡り、南口へ回るコースに変更したことにより、時間的なロスはほぼない。

（西東京バス㈱）通常の路線で大きくダイヤの時間を変更した場合、一旦は利用者数が落ち、その後徐々に便利な時間帯であれば利用者数が戻ってくるという傾向があるが、本便については変更当初からそれ程変化がないという事で、周知が非常にうまくいったという印象を持っている。

●報告事項(2) 小津町地域バス及び醍醐・降宿地区タクシーの乗車状況について

小津町地域バス、醍醐・降宿地区乗合タクシーの乗車状況について、資料に沿って事務局より説明した。

【主な意見、質疑】

- ・ 昨年の1月から、小津町の地域の方々の努力によって、乗車人数が非常に増えてきたという状況が報告がされていたが、その利用が定着したから30%増という年内の最終結果が出たのか、それとも、かなり乗るための努力というのを続けているということなのか。
⇒（事務局）努力を続けている旨の話を伺っているが、その中で新たな利用方法として、老人クラブの方々に外食をするために乗り合っていくなど、そのような利用方法も定着していきいているという話を伺っている。

●報告事項(3) 小津町地域バス及び醍醐・降宿地区タクシーのアンケート調査結果について

小津町地域バス及び醍醐・降宿地区タクシーのアンケート調査結果について、資料に沿って事務局より説明した。

【主な意見、質疑】

- ・ 今後、現在送迎で動いている方々をターゲットに、バスやタクシーを利用するような誘導についても考えていただきたい。

⇒（事務局）今後、地域の町会とも協力しながら事業を進めていきたい。

●報告事項(4) 交通事業者からの報告

（京王電鉄バス株）弊社京王バス南株式会社で「東京森都心 多摩ニュータウン東山運行計画」を認可申請中である。京王堀之内駅から駅北側の多摩東山住宅までを結ぶ路線について、本年４月１日より運行開始予定となっている。運行時間帯としては、京王堀之内駅発６時２６分～２１時５３分、東山住宅発６時１１分～２１時３８分、今後、乗車人数増が見込むことができれば増便する予定である。運賃については、片道１.５kmで１７０円であるが、住宅区画内の工事が進み距離が延長となると、１７０円ではないエリアも出るかもしれない。使用可能券種は、現金、ＩＣ、パスモ、スイカ、シルバーパス、モットクパスである。

（西東京バス株）バスロケーションシステムの導入について、現在、市内主要の停留所１４か所に音声付バス停案内表示機を設置した。設置の結果、利用者の方に非常に好評であり、また、音声案内については、視覚障害の方からも非常に好評である。今年度についても、引き続き拡充に努めるということで、国並びに東京都から支援いただきながら、ＬＥＤ式発車案内表示機をさせていただくこととなっている。

●その他

【主な意見、質疑】

特になし

●閉会

以上